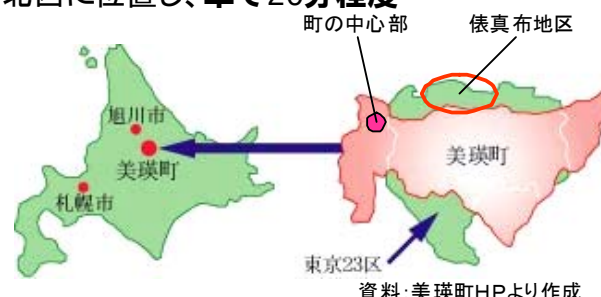


美瑛町俵真布地区（美瑛の学び舎） 概要

1 地区の概要

- 美瑛町は北海道上川支庁上川郡に位置し人口は約11,100人。高齢化率は32.9%(平成21年)
- 旭川から美瑛までは、1時間弱
- 対象である俵真布地区は、美瑛町の中心部から北西に位置し、車で20分程度
- 俵真布地区は人口は79人、25世帯(平成21年)
- 町の基幹産業は農業で、じゃがいも、小麦、テンサイ、米などの農産物を生産している
- 美瑛町は波状丘陵地形で、その丘陵で営まれる畑作農業の風景が美しい農村景観を構成し、年間120万人を超える観光客が訪れている



2 現状と課題

- 俵真布地域の人口はピーク時(昭和30年代後半)の15%まで減少している。
- 美瑛の学び舎は株式会社であるが、実質は代表の田中氏の個人経営である。田中氏は内閣府の地域活性化伝道師に選ばれているなど、廃校活用においてはカリスマ的な存在で、民間企業出身ということもありアイデアマンであるが、高齢(現時点で65歳)ということもあり、将来にわたり継続的な事業にすることが町(行政)の課題となっている。
- 活動内容は美瑛の学び舎が独自に取り組んでいるが、事業内容的に町が期待するほど集客があるわけではなく、経営状況も美瑛の学び舎(田中氏)の持ち出しで維持されており、持続的な運営には、何らかの改善が求められる状況でもある。
- 旧小学校を地域コミュニティの核として存続させたいので、施設の利用率を上げることと、施設運営が継続的になることを期待していることから、今後を見据えた活性化方策を検討したい。

3 取り組みの現状

- 美瑛町が国の地域再生計画を利用して旧俵真布小学校の跡地活用を検討。
- 公募により、(株)美瑛の学び舎(代表 田中勝)案を採用して、平成18年から貸付(無償貸付)を開始し、同19年より施設の活用を開始した。
- 活動内容は、教室をそのままのかたちで利用するセミナー・研修事業である。宿泊機能は有しておらず周辺の既存の宿泊施設(ペンション等)を利用することとしている。

4 今年度の検討手順

検討会議	検討内容案
第2回検討会議 2009.11.26	■専門家を介した意見交換(これからの農業と地域の活性化) ■将来像と具体的な取り組みイメージの共有
第3回検討会議 2009.1.18	■専門家を介した意見交換(野菜がもつ免疫力と農業の可能性) ■地域活性化指針の取りまとめ

5 将来像実現に向けて活動主体が求める情報

- 地域振興につながる方策の提案
- 地域とのパートナーシップのあり方
- 同様の取り組みを行う団体等との情報共有・事業連携のしくみ

【アドバイザー】

- 地元から講演会開催の要望あり(農地法の改正による大企業の参画のあり方、農業の高付加価値化、観光との連携)

6 拠点施設の状況と活用可能性

◆美瑛の学び舎(旧俵真布小学校)

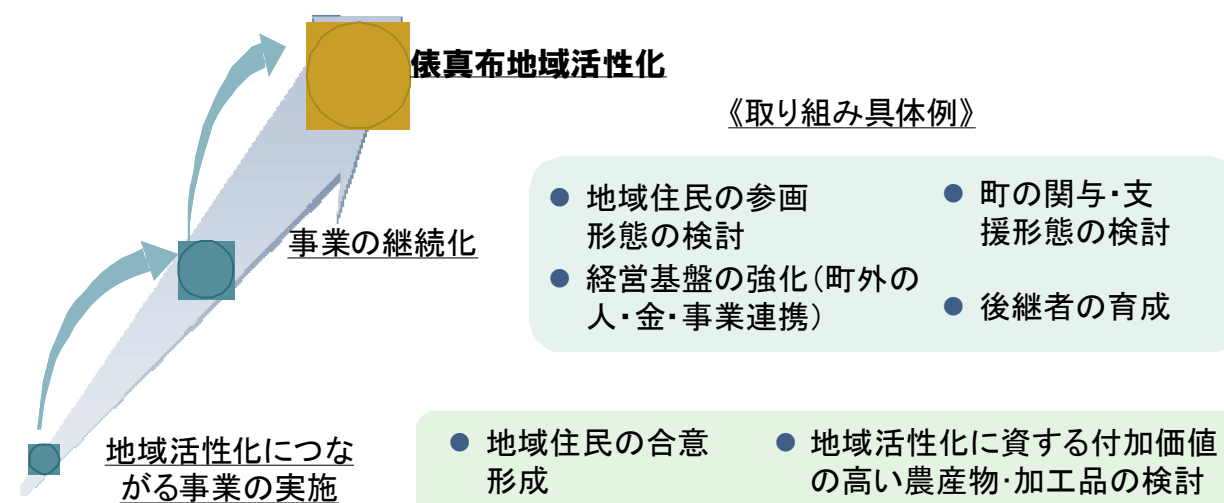
- 平成2年に竣工
- 平成15年3月に廃校
- 平成19年から施設の活用開始(敷地内には教員住宅4棟も現存)

課題として

- 現状の用途のままでの利用を前提とすれば施設整備等について、現状において特に課題はない。



7 地域活性化計画の概要



●当面の課題●

- 地域の活性化につながる方策の検討(検討の際は俵真布地区だけでは人口が少ないので、隣接する横牛・朗根内地区も加えて検討)
- 農業経営の確立に向けた新たな経営形態の検討(株式会社化を含む)